

閉会の挨拶

鍋島：池上彰先生、3名の先生方、本当にありがとうございました。人知を超えた大いなるものの智慧と慈しみにいだかれて、私たち人間がお互いに慈しみを持ちながら世界の安穩を考えつづけていくという、そういうメッセージを私自身、受け取らせていただきました。

最後に龍谷大学世界仏教文化研究センターの所長、能仁正顕先生から謝辞を申し上げます。

能仁：ただ今ご紹介いただきました能仁でございます。本日は龍谷大学世界仏教文化研究センター開設記念特別講演会「世界の苦悩に向き合う仏教の可能性」を開催いたしましたところ、このようにたくさんご参集くださいましたことを本当に御礼申し上げます。ありがとうございます。また、この度、池上彰先生、竹村牧男先生、両先生には本当にお忙しい中、日程を調整してくださり、このような講演会を持つことができましたことを、あらためて御礼を申し上げる次第でございます。



少し裏話をさせていただきますと、池上先生にはこのセンターの開設記念に当たりまして、ぜひともお話をお願いしたいということで、設立の当初からお願いを事務局の方からさせていただいていたわけでございますけれども、毎週のようにテレビで拝見しておりますのに、なかなかお話をご承諾いただけなかったわけでございます。ここ数週間、毎週のように、毎日のようにテレビに出られておりまして、また1月20日でございますか、20日には、たまたま私がラジオをつけますと、池上先生の声がラジオから聞こえてまいりまして、本当にお忙しい方だなと感心していたわけでございます。その先生が今日、お話ししてくださいました。大統領選があるので、それが終わるまでは講演を引き受けることはできない、とこういうことでございまして、それが今日、このような形で講演会を開催することができましたことを本当にありがたく思っていることでございます。

池上先生にこのセンターの趣旨をお話しさせていただいたときに、世界を開く仏教、また社会に向き合う仏教ということを申し上げ、その2つの言葉で申し上げさせていただいたわけでございますが、そのとき、即座に先生から今日の講題「世界の中で宗教を考える」という講題を頂きました。

グローバル化がどんどん進んでいく中、今、その反動が起きているわけでございます。その象徴的な存在が、今日、先生のご講演の中にごございましたトランプ大統領であろうかと思うことでございます。

先生はご講演の中で80箇所ですか、世界を歩き回って取材をされた。その経験を基に、

知見を基に、非常に平易な語り口で、分かりやすくお話をくださいました。そのような中で仏教が本当に果たすべき役割というのが非常に大きいことをお示しくくださいました。特に慈悲ということでございます。その慈悲の教えというものをわれわれにあらためて提言してくださったこととございます。

また、竹村先生におかれましては「現代社会の動向と仏教の可能性」ということで、慈悲の根拠となる縁起ということを先生は特に強調されまして、お話をくださいました。慈悲の根拠になるのが縁起でございまして、しかし、縁起はどのようにも解釈することができます。その自分の利益のために縁起を語ることもできるわけでございますけれども、その縁起ということが空であり、無我である。その上に実は慈悲が成り立つのであるということをお示しくくださったと存じます。

コインは裏表で世間に通用いたしますけれども、慈悲というコインの一面と縁起、智慧という一面、これが裏表になって1枚のコインが社会に、世間に通用するわけとございます。その両面を、コインをお二方の先生方からご提示、お教えいただいたことかと思っております。

そういった今日のご提言というものをあらためて、われわれはもう一度考え直して、仏教がいかにあるべきか。そして、われわれはいかに仏教を研究し、それを教育に還元していくのか。社会に還元していくのかということをお示しをあらためて考えさせていただきたいと思っております。

本日は有意義な時間を諸先生方に頂きましたこと、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

鍋島：能仁センター長、ありがとうございました。コインに表裏のデザインがあるように、慈悲と縁起を私たちの心のコインの両面にして、その2つの姿勢でこれからもじっくり考えてまいりたいと思っております。

最後にもう一度、感謝を込めて、今日の3人の先生方に拍手を送りたいと思っております。

ありがとうございました。ご来場いただきました皆さまも、この縁起や慈悲の世界においてなくてはならない大切な方々でございます。これからは龍谷大学に対しまして皆様のご意見をいろいろと頂戴できたらと思っております。どうかよろしくお願い申し上げます。

なお、池上彰先生をもっと知りたい、竹村先生のことをもっと知りたいという方は、表に本が売ってございますので、ぜひお買い求めください。

それでは、以上をもちまして、今日の日曜学校のような講演会を終了したいと思います。ありがとうございました。

